



2017年度大阪
テクノマスター
OSAKA TECHNO MASTER

HITOSHI MINAMI
南 仁

有限会社南歯車製作所 代表取締役

“ものづくり”の暗いイメージを明るくしたいんです!

長尺軸への歯切りとスプライン加工なら南さんに

スプラインとは、軸に浅い歯車のミゾを切り、もう一方の穴の内側にも同じ形のミゾを切って、軸と穴をはめ合わせることでモノをつなぎ、動力を伝えるための加工のことであり、ものづくり産業に欠かすことのできないものだ。南氏が代表を務める南歯車製作所は、日本・ドイツ・アメリカの主要な規格のほとんどに対応できるスプライン加工のスペシャリストである。片手で持てるものから3トン以上ある太くて長い軸までさまざまなものを加工している。横型歯切り盤と呼ばれる大きな機械で5メートルを超える軸に歯車の加工を施していく様子は圧巻である。



工場の一画に、昔ながらの機械が1台置かれている。昭和30年代に製造された傘歯車加工盤だ。「受け継がれて弊社で3社目ですが、すごく丈夫ですね」と南氏。「けど、使うのが難しくて扱える人が少ない希少な機械なんです。」この機械でなければできない加工がある。インターネットで検索して、「傘歯車の加工もできるんですか?」という話がある。そのうち、違う歯車加工の注文にもつながる。「広告効果もあり、そりゃもう大事にしています。あんまり儲かりませんけどね(笑)。「太くて長い物の加工も得意ですが、極細スプライン加工がうちの真骨頂。」長さ2メートル以上の極細スプラインを加工できる会社は、全国でもほとんどない。そんな中、同社は長さ7メートルのスプライン加工の実績もある。日本のものづくりを支えているあらゆる機械を構成する歯車やスプライン加工への同氏の思いは熱い。



「ありがとう」って言い合える関係って、いいじゃないですか

「よそができない仕事を率先してやってきた」と胸をはる。大企業でも対応できない特注品や生産が終了してしまった製品の依頼も数多い。同社の売上げのおおよそ半分は、同業他社からの注文。お客さんから「こんなんでできる?」という注文に、「できますよ。」と言うときは、ちょっと“ドヤ顔”になってしまうそう。「『困ったら南さんに』と言ってもらってます。よそができないことをやって、『ありがとう』って言ってもらえるのが、この仕事の一番の魅力」と誇らしげに語る。「もちろん僕も『お仕事いただいてありがとうございます』って思ってますしね。」

大事なものは、想像力なんです

「僕は、見積もりをするときや図面をもらった時点で、頭の中で実際に加工してるんですよ。」どうい道具が必要で、加工の順番はこうだという風に、常に想像している。「想像力のありなして、結果がぜんぜん変わります。」図面がなくても、完成イメージのモノから使用する状況や温度などのプロセスを考えぬいて、図面から提案することもしばしばあるそうだ。「材料選定もめっちゃめっちゃ大事。」同社の加工は歯車ができあがるまでの一工程であるため、「旋盤や熱処理などの前工程の人達にも『こうやってや、こうせなええもんにならへんで』って提案しています。他社ができないことを続けてきたからこそ最適な製品の提案ができるんです」と豊富なノウハウをもつ同氏の言葉は力強い。

【いつも笑顔でおもしろい(面白い)人】

「鉄工所って、暗いとか、キツイしんどいとかそういうイメージがある。それを払拭したいんです。」ものづくりの仕事は、実は結構給料は良いんです。そんな事実はあまり知られていない。ものづくりのイメージを明るくして、給料も良い、そんなところを学生や親御さんに伝えられれば」と同氏。南氏の笑顔いっぱいの明るさとポジティブさは、新しいものづくり職人の未来像を予感させる。

歯車の“駆け込み寺”



<長尺歯車の雄/スプライン加工のスペシャリスト>

祖父である初代社長が昭和23年に創業して以来、歯車一筋の有限会社南歯車製作所。同社の代表を務めるのが、3代目・南仁氏だ。同社は、工業の世界において欠かすことのできない歯車の中でも、長い軸に対する歯切り加工やスプライン加工を得意としている。また、長尺歯切りの中でも特に長い5メートルを超えるようなものも扱える稀有な企業である。大正・港ものづくり事業実行委員会や大正工業会青年部においても、ものづくり人材の裾野拡大につながる活動に積極的に取り組んでいる。

■所属企業概要
有限会社南歯車製作所 事業内容:各種歯車の歯切、スプライン歯切、傘歯車歯切、NCフライス加工
〒552-0007 大阪市港区弁天6丁目4-31 TEL:06-6576-2521/FAX:06-6576-2524
<http://m-haguruma.sakura.ne.jp/>

